

戦後 80 年と 歴史教育の課題を見つめる

話題提供 小川 幸司さん (伊那弥生ヶ丘高校教諭)

日 時 7 月 19 日(土) 午後 1 時 30 分～3 時 45 分(予定)

会 場 あがたの森文化会館 講堂・ホール 参加費 200 円

※ 電話での事前申し込みが必要です

私の話題提供講義は二つの問題を交錯させていくことを考えています。

一つは、「戦後 80 年」をどうとらえるかという問題です。異なる政治思想が激しく対立する「分断の時代」、そしてファクトよりも自分にとって都合なフェイクが重視される「ポスト真実の時代」に、戦争と自分たちの関係をどう見つめるかです。

もう一つは、これからの歴史教育をどう実践していくかです。現在の高校歴史教育は、従来の知識注入重視から、資料を丁寧に読んで考察する歴史的思考力重視に転換しつつあります。すべての生徒が学ぶ必修科目が、世界史から「歴史総合」(近現代史を中心に他国史と日本史を統合した科目)になり、考察・対話を行うような学び方に転換してきています。しかしながら、そうした「歴史について議論する学び」のなかで、「激しく対立する論点」というものは避けられがちになっています。噂を聞きつけた世間の誰かから抗議を受けるのではないかという危惧や、生徒たちの議論の対立をどう収拾したらよいかという心配が先立ってしまうからです。

これに対し私は、歴史を学ぶことで、①「論点(課題)」と、②それに対する複数のアプローチ、そして③その際に重視する思考方法などを知ることができ、複数ある選択肢の中で主権者である自分はどれを選びとるかという「市民としての歴史的思考力」を磨くことができると考えています。

今回のサロンでは、そんな「戦後 80 年の論点」に「私・高校生・皆さん」がどうアプローチしていくべきかを考える予定です。

小川幸司(おがわ こうじ)さんは 1966 年、茅野市生まれ。大学卒業後県立高校の教員となり、豊科高校、松本深志高校などに勤め、蘇南高校校長を経て現職。2015 年からは中央教育審議会の社会・地理歴史・公民ワーキンググループ専門委員を務め、学習指導要領の策定に関わる。著書には『世界史とは何か』(岩波書店)、『世界史との対話』全 3 巻(地歴社)、『世界史のパサージュ』(東京法令出版)をはじめ、共著・編著・論文など多数。

☆テーマに沿って話題提供者の話のあと、気楽に懇談。自由にご参加ください。

主催：サロンあがたの森実行委員会 共催：旧制高等学校記念館・記念館友の会

申し込み・問い合わせ 旧制高等学校記念館 ☎ 35-6226 FAX 33-9986